

資料 3 - 4

科学技術・学術審議会 学術分科会
人文学・社会科学特別委員会（第6回）
令和3年6月21日

社会科学でのデータ利活用と 東大社研CSRDAの拠点事業

2021年6月21日(月)

三輪 哲

(東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター)

日本における社会科学データアーカイブと SSJデータアーカイブの利活用

社会科学でのデータ利活用

- 今や、「データ駆動型科学」、「オープンサイエンス」などの考えが重要視される時代に
- だがこれは最近の動向であって、従来からずっとそうであったわけではない
- かつての日本の社会科学では、データは、当該のプロジェクトのメンバーの外(第3者)に共有されることはほとんどみられなかった
- 1990年代から、日本でもデータアーカイブが設立されていき、データの保存・公開が少しずつ進むとともに、研究目的での再分析の機会が開かれるようになった
- データアーカイブの意義としては、、、
 - データの散逸を防ぎ、安心して長期保存できる
 - データが見つけやすく、アクセスしやすく、相互運用しやすく、再利用しやすくなる
 - 分析の再現性を担保できる
 - 新たな視角からの分析が可能になる
 - 予算が乏しい若手研究者の研究や、学部生対象の授業でも、本格的なデータ分析をおこなうことができる

日本におけるさまざまな社会科学データアーカイブ

①社会科学の多様な分野のデータを収集し提供

札幌学院SORD*、**東京大学社会科学研究所CSRDA(SSJデータアーカイブ)**、立教大学RUDA†、など

②特定分野のデータを収集し提供

レヴァイアサン・データバンク、兵庫教育大学JEDI*、など

③自機関のデータを第三者に提供

家計経済研究所*、慶應義塾大学PDRC、JILPTデータアーカイブ、など

④公的統計の匿名データの提供やオーダーメイド集計

独立行政法人統計センター、一橋大学経済研究所、神戸大学マイクロデータセンターKUMiC、など

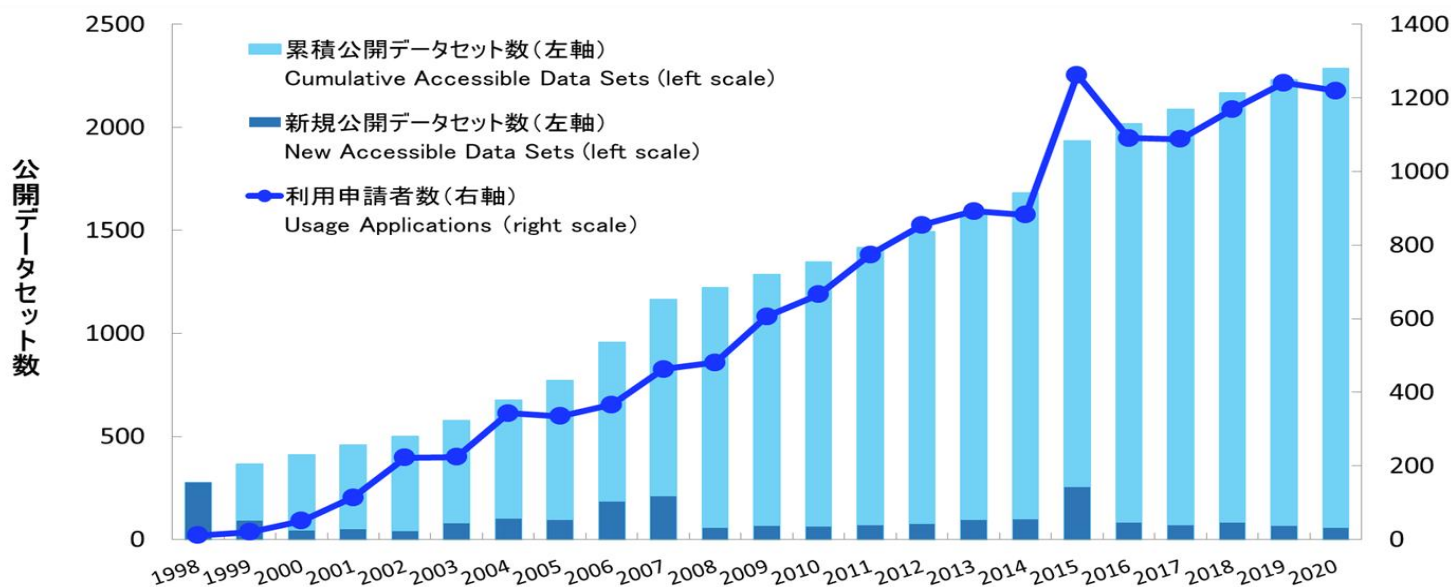
⑤調査情報のメタデータ公開とオンライン集計

大阪大学SRDQ*、など

※佐藤博樹(2012)をもとに一部改変

SSJデータアーカイブの利活用の状況

- 東大社研CSRDAのSSJデータアーカイブの利活用は増加基調
 - 理由1: 公開データの堅調な増加
 - 理由2: 研究者の世代交代で、院生時のユーザーが教員となって継続的に利用
 - 理由3: 多角的な事業展開と、ユーザーフレンドリーなシステム開発



	SSJDA Direct		NESSTAR	
	データ検索数	提供データ総数	メタデータ閲覧数	分析実行回数
2015年度	76,889	5,846	15,782	14,294
2016年度	140,206	6,972	36,130	29,222
2017年度	243,924	7,000	47,403	35,159
2018年度	364,360	6,463	65,440	54,831
2019年度	362,554	9,535	92,132	69,622
2020年度	320,090	12,884	113,508	97,888

東京大学社会科学研究所
附属社会調査・データアーカイブ研究センター

Center for Social Research and Data Archives
Institute of Social Science, The University of Tokyo

**個票データの二次的
利用基盤の構築**
Construct Data Infrastructure
for Secondary Use

個票データの寄託
Deposit Data
データ利用申請の受付・提供
Process Usage Applications・
Grant Access to Data

調査基盤研究分野
Research Infrastructure Group

データの保存・収集・公開
Preserve, Gather and
Make Data Public

SSJデータアーカイブ
SSJ Data Archive

リモート集計
Online Analysis System

社会調査研究分野
Social Survey Research Group

一次データの創出
Generate Original Primary Data

東大社研パネル調査
Japanese Life Course
Panel Surveys (JLPS)

若年・壮年・高卒・中学生親子パネル
Panel surveys of the youth,
the mid-aged, high school graduates,
and junior high school students
and their mothers

国内における調査協力
Cooperation with Research
Projects in Japan

「子どもの生活と学び」
研究プロジェクト
Children's Life and Learning
Research Project

ベネッセ教育総合研究所
Benesse Educational Research &
Development Institute

実証的社会科学 研究の発展
Development of Empirical
Social Research

東アジア社会調査 ネットワークの構築
Creation of a Network of
and East Asian Social Surveys
Data Archives

**個票データの
二次的利用の促進**
Encourage Data Analysis for
Secondary Use

共同研究
Joint Research
若手研究者の育成
Young Researcher Development

計量社会研究分野
Quantitative Social Research Group

二次分析の普及
Encourage Secondary Analysis

二次分析研究会
Secondary Analysis Workshops

計量分析セミナー
Quantitative Analysis
Seminars

国際調査研究分野
International Survey Research Group

国際的ネットワークの構築
Build International Network

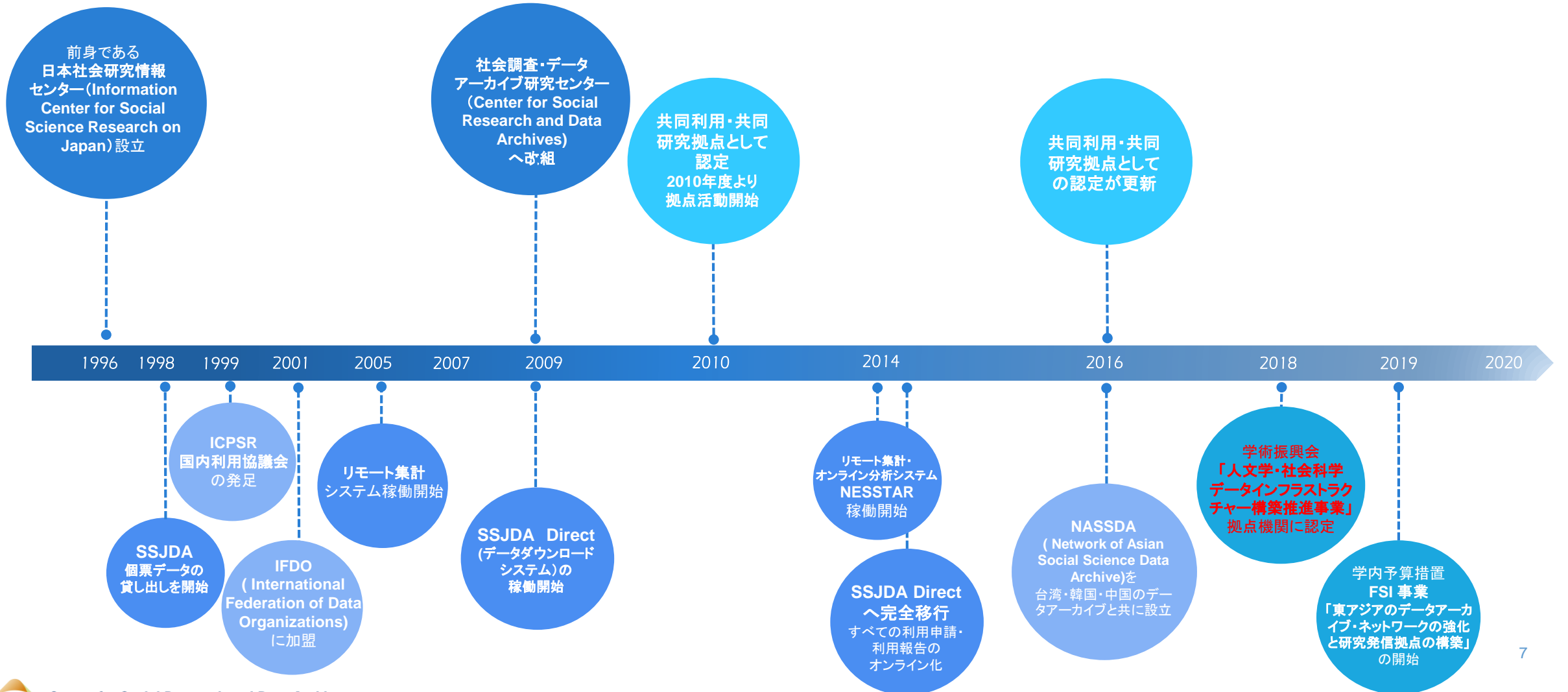
ICPSR国内利用協議会
ICPSR Japanese National
Membership Association

東アジア社会科学データアーカイブ
ネットワーク(NASSDA)
Network of Asian Social
Science Data Archives

**世界のデータ
アーカイブと連携**
Coordination with Data
Archives Worldwide

IFDO, ICPSR, GESIS, KOSSDA,
SRDA, CNSDA etc...

東京大学社会科学研究所CSRDAの沿革

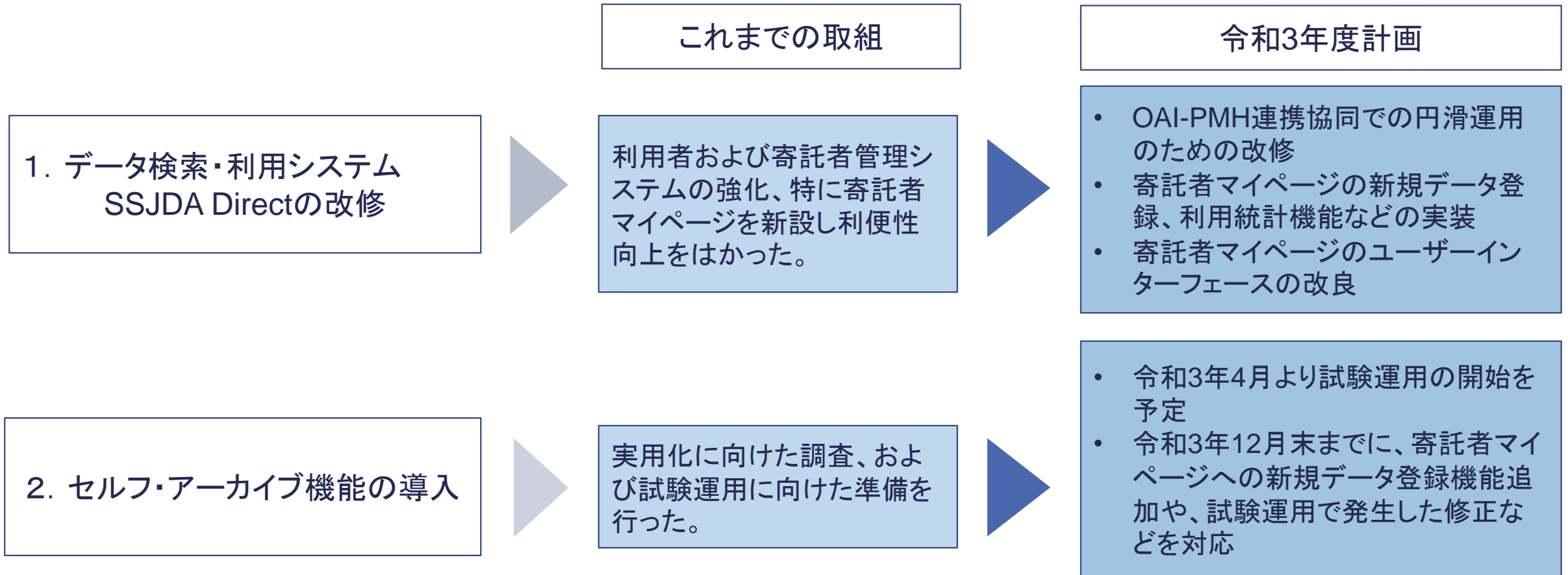


データインフラストラクチャー構築事業の拠点として

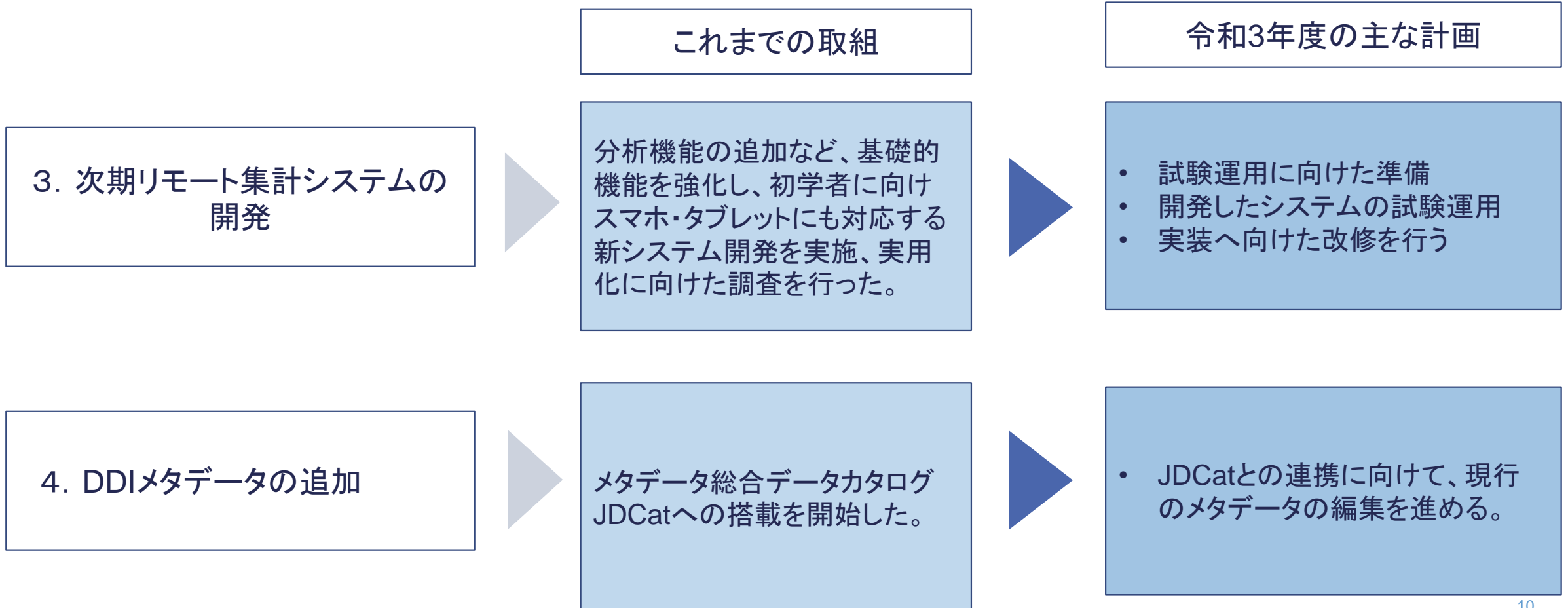
2018年～現在

- 1) データアーカイブのシステム強化
- 2) メタデータや文書の英語化
- 3) 国際活動の展開

データアーカイブのシステム強化



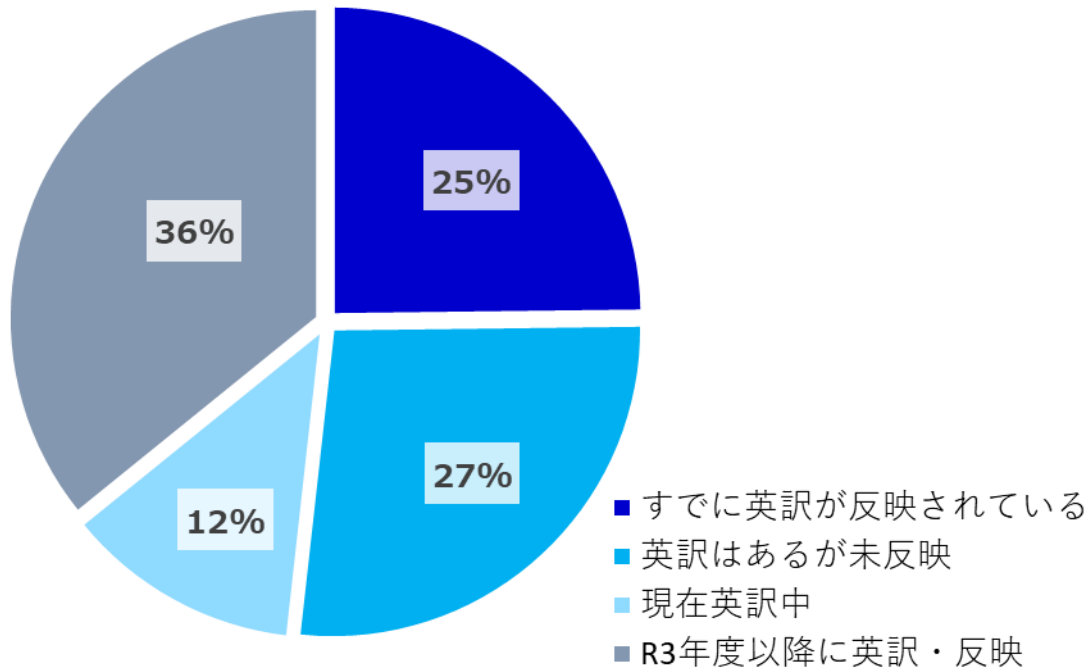
データアーカイブのシステム強化（続き）



メタデータや文書の英語化

1. メタデータ英訳の進捗状況

令和3年2月現在、SSJDA Directで公開中のデータ 1443件の英訳状況



2. 令和3年度の主な計画

- 既存のメタデータの英語化をほぼ完了させる
- 自動翻訳の導入を検討
- 国際的な利用が見込まれる主要な調査データについて、質問紙・個票データの英訳の公開準備
- データアーカイブ国際認証CoreTrustSeal取得のため内部文書の英訳等、準備を進める

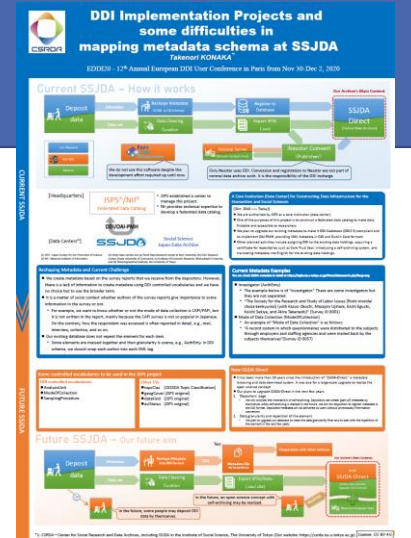
国際活動(1) 国際学会報告

EDDI2020 the 12th Annual European DDI User Conference, Virtual Conference (2020年12月)
ポスター報告

Author: Takenori Konaka

Title:

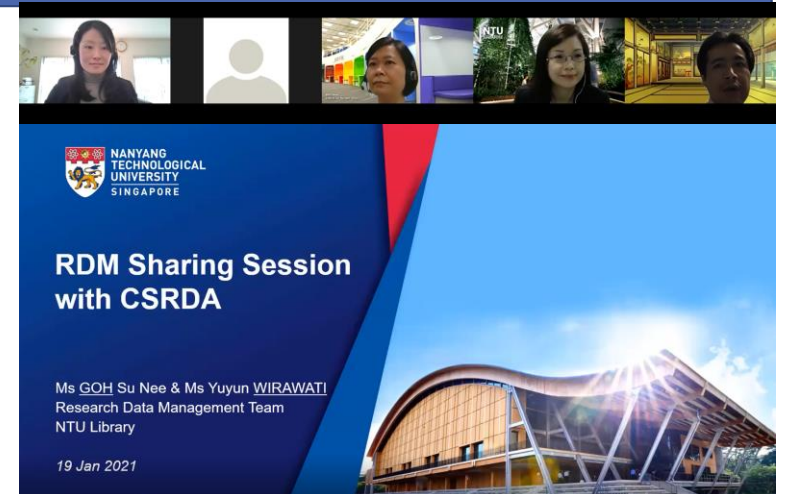
“DDI Implementation Projects and some difficulties in mapping metadata schema at SSJDA”



国際活動(2) 国際ワークショップの開催 (2021年1月 オンライン開催)

“Research Data Management:
Nanyang Technological University ‘s Approach”

シンガポール南洋理工大学の専門家を招き、シンガポールにおける研究データ管理の政策を踏まえて南洋理工大学での取り組みについて講演。質疑応答では効果的な研究データ管理及び支援を行う方法に関する議論がなされた。



国際活動 令和3年度計画

1. IASSIST (International Association for Social Science Information Services & Technology)2021

オンライン開催にてポスター報告(2021年5月)。

2. EDDI2021, the 13th. Annual European DDI User Conference

ポスター報告予定(2021年12月)

3. CSRDA主催 国際ワークショップ開催予定

現状の認識と今後の課題

- データアーカイブは、これからのオープンサイエンス、データ駆動型科学を支える重要な存在
 - データを蓄積すること、共有すること、再分析の可能性を開くことを軽視してはならない
 - また、人材育成への貢献は実のところ大きい(大学院進学のきっかけになる、院生にとっての主要な研究資源になる)
- SSJデータアーカイブは、いまだ発展途上の段階
 - 着実な成長を遂げたものの、財源および人材の確保、新たな問題への対処など課題は多い
- データインフラストラクチャー構築事業は、大変ありがたい事業
 - 技術者の雇用やシステム開発への投資など、アーカイブの「屋台骨」を支えてくれる貴重かつ希少な財源
- 今後の課題としては、、、
 - データ公開/共有のさらなる増加
 - 質的調査データのアーカイブの実現
 - データ利活用環境の向上